

足利市に存する近代化遺産の活用デザインに関する検討

— 中橋と旧私立足利盲学校を事例として —

福島研究室

515702 石井 大雅

1. はじめに

近年、少子高齢化や若年労働者層を中心とした東京圏はじめ大都市への人口流出に歯止めがかからず、それに伴い地方都市では地域経済の衰退や伝統文化継承の困難さ等、大きな影響が恒常化している。このような状況の中、地域再生に向けた取り組みの一つとして、近代化遺産の活用によるまちづくりが注目されている。この手法は莫大な資金に依存することなく、身近な地域資源を新たな視点から評価し活用することにある。

本研究では、足利市に現存する近代化遺産を事例として、その活用をとおしてまちづくりに資することを目的としている。そこで本稿では、具体的に橋梁と学校建築物の2つの近代化遺産を取り上げ、その活用デザインの提案を行い、これからの方向性について検討を行う。

2. 橋梁・学校施設に係る保存と活用に関する調査

本稿では、歴史的な橋梁と学校建築物の保存とその活用デザインの提案を目的としている。その検討を行うに際し、ここでは、全国におけるこれまでの保存・活用に関する調査を行い、整理を行った。

(1) 橋梁

近世から現在において現存する橋梁を対象に、現在供用されている橋梁および保存されている橋梁等について整理を行った。調査には、文献資料として「日本の近代土木遺産-現存する重要な土木構造物 2800 選[改訂版]-」を、さらに Google による検索を行い、以下の分類にまとめた。①原位置で建造当初の用途のまま供用されている(勝鬃橋・永代橋・かざら橋等)。②供用下・原位置ではあるが転用したもの(霊台橋・眼鏡橋等)。③供用下・移設・転用が無い(戸田橋・中川橋等)。④供用・移設・転用(霞橋・りんどう橋・八幡橋等)。⑤現在供用しておらず、展示等により残されているものもある(年貢橋・旧総武鐵道江戸川橋梁等)。

(2) 学校施設

廃校となった学校施設の現在の利活用について、“文部科学省 HP の廃校活用リンク集”および“北海道教育委員会 HP 内廃校施設の活用事例集”を基に 320 件の廃校活用事例を抽出し、①現在の建物の利活用(分

類 1)、②利活用の内容(分類 2)として分析した。

表 1 では、廃校後も「学校施設として利用」、「美術館等に代用」、および「オフィス」・「工場」等、大分類 11・小分類 18 に区分し集計した。その結果、小分類では「美術館・図書館・資料館等」が 63 件(19.7%)と最も多いことが分かった。また、大分類では、「宿泊や体験等」への利活用が 82 件(25.7%)と最も多く、「福祉施設関連」53 件(16.6%)、「学校施設」38 件(7.1%)と続き、その外の利活用として「工場」・「レストラン」等もあった。

表 2 では、施設の活用内容について集計した。その結果、「地域振興に係るもの」が 81 件(25.3%)と最も多く、「文化に係るもの」61 件(19.1%)、「支援事業」が 55 件(17.2%)であった。

表 3 では、国重文施設や新聞掲載記事を基に 5 施設を選び、アンケートおよび現地での聞き取り調査により整理した。国重文・国登録施設は資料館・記念館としての活用が主体であり、無指定の施設は活用内容が多岐に及んでいる。指定による維持管理に係る優遇措置の有無はあるが、どの施設も建物の長寿命化等抱える課題は同様であり、苦慮しながらも

表 1 建物の種別による分類

番号	建物の種別	件数	(%)
1	① 学校(公立)	5	1.5
	② 学校(私立)	16	5
	③ 学校(通信制)	10	3.1
	④ 学校(専門)	7	2.2
2	美術館・図書館・資料館等	63	19.7
3	① 宿泊施設(体験併用)	40	12.5
	② 宿泊施設のみ	6	1.9
	③ 体験施設のみ	36	11.3
4	研究施設	3	0.9
5	集会施設	38	11.9
6	高齢者居住施設	6	1.9
7	① 福祉施設	41	12.8
	② 福祉施設+就労を含む	12	3.8
8	オフィス	9	2.8
9	① 工場	10	3.1
	② 工場(体験開催あり)	7	2.2
10	特産品加工施設	10	3.1
11	レストラン	1	0.3
計		320	100.0

表 2 取り組み内容による分類

番号	活用の内容	件数	(%)
1	教育的に係るもの	51	15.9
2	文化に係るもの	61	19.1
3	地域交流に係るもの	43	13.4
4	地域振興に係るもの	81	25.3
5	支援事業	55	17.2
6	製品製作・販売	21	6.6
7	保管	3	0.9
8	その他	5	1.6
計		320	100.0

表 3 文化財・近隣に位置する施設の調査

	施設名	所在地	指定等	現用途	管理・運営に対する問題点等	これからの保存・活用の方向性
1	旧登米高等尋常小学校	宮城県登米市	国重文	資料館	・第3セクター運営であり、赤字でも指定管理料の増額がないため、入館者数の確保が課題	・展示物のリニューアルが必要 ・施設の計画的な保存・修理 ・文化財の管理・運営・維持
2	旧花輪小学校	群馬県みどり市	国登録	記念館 資料館	・来館者数の減少への対応	・施設の長寿命化方策の検討と市全体としての施設改修計画 ・貸館用途の拡大、等
3	旧豊郷小学校	滋賀県豊郷町	国登録	記念館 資料館	・施設の老朽化への対応	・今後も教育・福祉・観光の分野において利活用を進める
4	旧木幡小学校	栃木県茂木町	無指定	宿泊・体験施設	・人材の確保と育成	・ある程度施設が整ってきたので、企画事業による利用者増に向けた相乗効果による運営の安定化を図る
5	旧馬頭西小学校	栃木県那珂川町	無指定	—	・資金の捻出(現在は貸館料、廃品回収による収入の充当等)	・保存・活用に向けた資金の確保と活用手法の検討(映画の撮影場所・民泊施設、等)

地域色等の特徴を出しつつ運営しているのが分かる。

3. 中橋・旧私立足利盲学校の活用デザインの提案

(1) 中橋

①基本とする考え方

現在も原位置で供用されており、構造的課題はあるものの形式は全国的にも希少性が高い。また、足利市建築・景観賞の受賞等、周辺景観との調和による代表的景観として市民の愛着も深い。これらのことを踏まえ、現在の位置・構造は変更せず、次世代に伝えることを基本とする。

②具体的な活用デザインの提案

現機能から将来的には人道橋化を目途に、以下による段階的移行を企図した。1期：陸開設置（景観は損ねるが構造的課題による河川災害への懸念は解消される）。2期：老朽部材の交換（新規部材の適度な使用は歴史的価値を損ねない^{注1)}）。3期：経年劣化を確認しつつ現橋の人道橋化と新規道路橋の設置（現橋の形式を残しながら現在の交通体系も維持）。図1に、段階的移行のイメージ図を示す。

(2) 旧私立足利盲学校

①基本とする考え方

昭和初期の学校建築物で、身体の不自由な人の学びの場として建造された建物である。木造かつ閉鎖されて20余年経過することから損傷は大きい。二階建てで正面中央部分をマンサード屋根としたコロニアル風の建築物で、近代の香を醸す貴重な建物である。これらを踏まえ、建物固有の意義と特徴を活かすことを基本とする。

②具体的な活用デザインの提案

教育・文化に係る機能と地域交流に係る機能の配置を、その位置づけとする。具体的には、創設者の意思・文化活動の場の創出、全国の学校遺産に係るネットワークの形成、地域特性を生かした体験・学習メニューの提供、イベントを含む市民と来訪者の交流促進等の機能の配置により、創設者の意思と近代化遺産としての建物の保存・管理を目途とした機能配置を企図した。図2に、機能配置の概念図を示す。

4. まとめ

本研究の成果は、以下のとおりである。

(1) 中橋の活用デザインとして提示した段階的移行案は中橋の価値を最大限優先したものであり、将来においてもそれを共有し得ることができる。しかしながら、陸開の設置位置も含め、景観とのバランスについて検討が必要となる。

(2) 旧私立足利盲学校については、その有すべき機能の提示までに止まった。老朽化が加速度的に進行する中で、提示した機能の表出とともに建物自体の管理手法の検討が必要である。

近代化遺産は、活用することにより保存・管理の道筋が明確になる。今後は、まちづくりにおける近代化遺産活用のための認知・浸透に向けた方法論について検討していきたいと考えている。

補注1)：五十畑、他、「歴史的鋼橋の保全に関する事例分析および考察」,土木学会第72回年次学術講演会,2017



図1 中橋の段階的移行のイメージ図

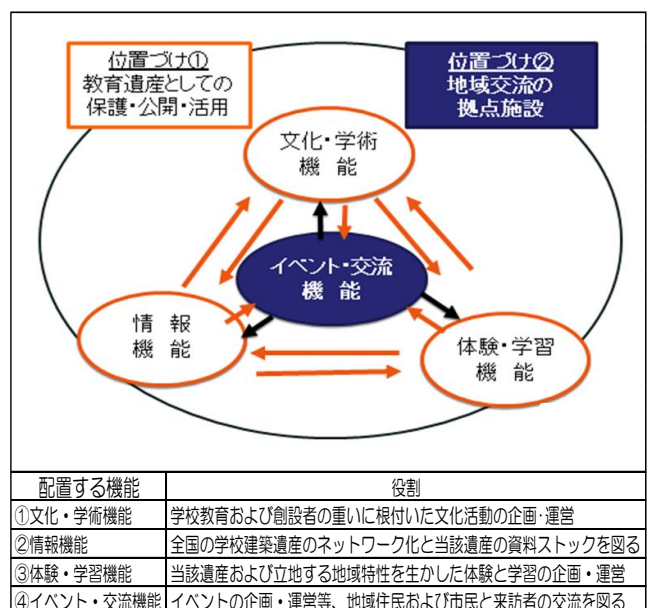


図2 旧私立足利盲学校の機能配置のイメージ図